

2024年度つくば国際大学高等学校自己評価表

目指す学校像	1 自分を生かし、「社会の役に立つ人材」を育成する学校 2 厳しい時代を生き抜くための「生きる力」を身に付けられる学校 3 地域に根差し、地域に信頼され愛される学校
重点項目	重点目標
1 キャリア教育の充実	社会的・職業的自立に向け、生徒一人ひとりの夢を育み、将来の自分を考えさせ、必要な基盤となる能力や態度の育成に努める。また、併設大学・短大との連携を強化する。
2 確かな学力の向上	わかる喜びと自信をもたせ、よりよく問題を解決する力を養うため、基礎学力や思考力・判断力など確かな学力の向上を図る。
3 人間関係作りの推進	温かい人間関係を築くことができるよう、多様性を認めながらコミュニケーション能力の向上や居場所作りに努める。
4 特別活動の活性化	望ましい集団活動を通して個性の伸長及び自主的・実践的態度の育成のため、部活動や学校行事等の活性化を図る。
5 基本的生活習慣の確立	他者と協働できるよう、規範意識や自己管理能力を育むため、学校のルールを守り、社会のマナーを身に付けさせる。
6 国際教育の推進	グローバル化が急速に進展する中、外国の人々の多様な価値観を認め共生できるよう、異文化理解の活動を推進する。
7 ICT教育の推進	社会の高度情報化の進展に主体的に対応できる能力や態度を育むため、情報活用能力の育成を図る。
8 地域貢献活動の推進	奉仕の精神を涵養し、豊かな人間性や社会性を高め、達成感や自己肯定感を醸成するため、地域社会での奉仕活動や体験活動の推進を図る。
9 働き方改革の推進	教職員が健康でやり甲斐がもてるよう業務改善を図るため、より良い職場環境作りに努める。
10 生徒指導の見直し	校則など生徒指導全般を見直し、「積極的な生徒指導」を通して生徒の自己肯定感を高め、生徒と教職員との信頼関係をより一層醸成し、温かみのある学校作りに努める。

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
教務部	1 授業時間の確保と規律ある授業実施の徹底を図る。	・チャイムで授業開始・終了を徹底する。 ・節度ある態度で授業に参加できるよう教科担当者と担任・学年担当の連携を徹底する。	B	A	・授業に臨む姿勢を保てない生徒に対する指導等、教科担当者と担任・学年担当の連携のとり方に課題が残る。教科担当者としての役割を果たしつつ、協力を求めるべき状況については、速やかに担任・学年担当と連携し、修正させるよう生徒に働きかける必要がある。 ・端末を活用した教科指導や授業展開の研修は継続して行う。 ・日常的に生徒の学習活動の評価を行い、必要な学習活動の修正、改善を促すとともに、教員自らの指導方法の工夫改善にも努める。 ・アドバンス推進委員会から示されたアドバンススクールの現状報告等及び対応方針を踏まえ、エリア設定科目等については、必要な修正・改善を図りながら、継続的に取り組む。
	2 授業力の向上を図る。	・生徒端末を活用した教科指導や授業展開を意識した研修等を実施する。	A		
	3 適正な観点別評価を行う。	・教科ごとに作成した評価規準による評価の実施と必要に応じた評価規準や評価方法の見直しを行う。	A		
	4 P D C A サイクルを確立し、自己管理能力の育成・向上を図る。	・N O L T Y スコラ手帳の活用を通して、生徒のより良い生活習慣の確立を図り、希望進路の実現に向けた行動を促す。	A		
	5 エリア設定科目等、アドバンススクールの持続的な取り組みに必要な方策を検討する。	・エリア設定科目、ベーシック、キャリアデザイン等、アドバンススクールの核となる科目を継続的に行うために、必要な指導内容や実施方法の修正・改善を図る。	A		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
図書情報部	1 資料、業務、ルールなど情報整理と共有化をはかる。	・年度末・始の業務について図書情報部内情報を共有し、業務が滞らないよう情報を整理する。I C T機器の利用や校内ネットワーク利用についてルールなどを整理してまとめる。	C	B	・校務支援システム、Google for Education、Microsoft365、教員P C、生徒個人P C、ネットワーク回線の改修など、ここ数年で業務、教育におけるI T環境は整っているが、生徒P Cの授業活用は、工夫が必要である。 ・クラウド環境を利用するようになり、今後、学校でもゼロトラストを考えた情報セキュリティ対策が必要になる。 ・図書システムの整備が完了した。今後は、図書室運営方法の改善を図ることになる。
	2 図書室の情報化をはかり利用者を増やす。	・図書システムをできるだけ早期に立ち上げ、生徒が利用できる環境を整備する。	A		
	3 職員の業務、生徒の学習にI C T機器を活用できる環境を整備する。	・校務支援システムの運用がスムーズにできるよう、マニュアルを整備する。 ・生徒個人端末が授業でスムーズに活用できるよう環境を整備する。	B		
	4 I C T活用するための教員のスキル向上をはかる。	・アプリケーションの授業での活用方法についてレクチャーする機会を設ける。	C		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
進路指導部	生徒一人ひとりの夢を育み、その夢を実現させる。	<生徒関係> ①学力の育成 ・課外授業の実施 進学課外・休業中課外・自由登校課外実施 ・Classi 等を活用した週末課題配信の促進 各教科との連携を図る ・外部(模擬)試験を活用したデータ分析 生徒の苦手を克服 ②進路情報の提供 ・進路ガイダンスの充実 幅広い進路選択を提供 ・『進路探究室』の充実 生徒が活用しやすい環境づくり ③その他 ・併設幼保実習、外部医療関係実習への参加 より体験的・実践的な学び ・外部講師による講演会や面接指導 ・入試加点対象となる資格取得 エリア等と連携し、入試で加点対象となる資格試験に挑戦させる <教員関係> ①教員研修の充実 ・ベネッセやリクルートのコンテンツ活用 三者面談や学習指導に活用 ・外部研修会への積極的な参加	B	A	・放課後課外・夏季休業中課外は実施できたが、3 学年対象の自由登校中課外が実施できていない。各大学からも年内入試合格者への 2 月・3 月の学習指導に協力を依頼されているため、次年度からは、主要 3 教科の教科主任にもお願いし、入学後の学習に対応できる学力育成に尽力したい。また、外部模試の受験者に対し、模試の事前事後指導に力を注ぎ、模試の結果に反映させることで生徒のやる気を導き出す必要がある。 ・卒業までに計画的にガイダンスを行い、生徒の夢探しに寄与し、結果として進路先も多岐にわたっていることは評価できる。進路探究室の利用法については、見直す必要がある。 ・インターンシップも含め、実習参加者の事業所からの評判は非常に良い。また、今年度より始めたインターンシップ事前研修も成果があった。リテラスでは合格者も増加し、さらなる合格に意欲的な生徒も増えてきている。 ・年度初めに教員研修の計画を組んだことで、昨年度よりも充実した研修となった。クラッシーやファインシステムなどのコンテンツを教員がより深く理解することで、授業や面談の I C T 化を加速させていきたい。また、多様化する入試方法や学部学科編成を多く

		教員のスキルアップ ②教員間の情報共有 ・来校いただく学校や企業から得た情報を職員間で共有する ・研修会で得た知識や情報を全教職員に共有必要なら研修会を実施 ③高大連携の強化 ・併設大学・短期大学との連携 受験者数や入学者数を増やす 入試説明会などの情報共有の機会を作る ・上級学校の指定校推薦枠を増やす 積極的に依頼をし、進路選択の幅を広げる ・卒業生の追跡調査 高校時の成績との相関を調べる ④産学連携 ・卒業生の就職先との連携強化 挨拶周りと生徒への声掛け ・入学・入社後に継続できなかった生徒対応 卒業生来校時に対応していく。	A A A	の教員が理解できるような機会を増やしていくべきだと感じる。新たな指定校枠を確保することで、大学が本校に目を向けるきっかけをつくることができた。 ・今年度、併設大学・短期大学の指定校推薦を利用し、当初の希望者数より多くの生徒が、併設大学や短期大学へ進学を果たした。高大連携を強化するためにも、より併設大学・短期大学への進学者数が増えるよう工夫した指導が求められる。 ・求人数は年々増加しており、売り手市場は継続しているため、雇用条件も格段に良くなっている。各事業所は、再就職者の雇用にも前向きであるので、就職活動におけるミスマッチを防ぐ対策をとる一方で、卒業生が離職した場合に、本校に足を向けやすい環境づくりも必要と考える。
--	--	---	----------------------------	--

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
生徒指導部	1 生徒一人一人についての理解の深化を図る。	・毎年の生徒問題行動の多さの原因の一つには、教員側の生徒理解の足りなさもあるように思われる。昨年度も同様であったが生徒を理解するとともに生徒との心のふれあいをすることで、問題行動の減少に繋げていきたい。声をかけ続けることで、いつも見守られている意識を植え付けていきたい。	B	B	・問題行動の件数については、昨年度 89 件であったが、今年度は 41 件と減少した。 ・この減少については、先生方が生徒とのコミュニケーションを心がけ、相互理解を図ったことに起因すると考える。 ・次年度についても、日々の何気ない挨拶から始まり、些細な生徒の変化を見逃さずに生徒支援を推し進めていくことで学校活性化に繋げたい。
	2 基本的生活習慣の習得。	・定期的な髪型服装指導の実施。 ・各学年の集会等を含めた躰教育の実施。	C		
	3 情報安全教育を勧め、危機管理能力を養成する。	・スマートフォン・タブレット等の適切な利用方法と、SNS 利用時の危険性について、講話及び集会・HR 等により円滑な利用方法を身に付けさせる。	B		
	4 薬物乱用防止教育を推し進める。	・県内各所で高校生の逮捕者が急増している現状があり、それに対する手立てが急務となっている。薬物乱用がすぐ近くで起きている状況を把握させるため、講話を通した被害防止教育を行っていく。	B		

	5 いじめ防止教育を推し進める。	・いじめ対策委員会を中心に、全教員の共通理解のもと、絶対にいじめは容認されないという態度を明確にしていく。 ・年3回（6月・11月・2月）の学校生活に関する調査（いじめ状況確認調査）を行い、早期発見早期対応に努める。 ・学年集会・HRにおいていじめの定義について再確認を行い、思いやりの心の醸成を図る。	B		・今回学校としていじめの認定を2件行った。生徒の出す些細なサインを把握していくことがいじめの防止につながると考え、学校をあげていじめの防止に取り組んでいく。
	6 交通安全教育を徹底する。	・土浦警察署交通課から講師を招き、地域の現状の把握と交通ルールとマナーの遵守の重要性を説き、無事故で生活できる態度を身につけさせる。 ・生徒指導部による通学路指導等により、交通ルール・マナーの遵守を徹底させる。	B		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
教育相談部	1 青年期における多様な悩みや不安を抱く生徒へのより適切な対応を通して、自己理解を深めさせ、健全で有意義な学校生活を送るための支援を行う。	・HR・授業の他、学校生活全般に亘る生徒の健康観察とともに、細やかなコミュニケーションを心がけることにより、悩みや不安を抱く生徒の早期の認識と、速やかな対応に努める。 ・教職員・スクールカウンセラー、それに状況に応じた保護者との連携を図ることで、適切であるとともにより効果的な支援の実践を図る。	A	A	・教育的支援の必要な生徒に対する対応や指導、または配慮など、担任・相談部担当・保護者間の情報共有も含め、概ね適切に行われたと考える。また、支援会議の開催や相談室長期利用における職員会議要請・提案についても滞りなく実施できた。引き続き、悩みや不安を抱き、速やかな対応が望まれる生徒の早期認識に努めていきたい。
	2 研修会を通し、教員の教育相談能力の向上を図る。	・LGBTQ、ADHDの理解と対応力の向上や、「改正障害者差別解消法」に基づいた教育現場での合理的配慮の具体的留意点の理解などを進めることで、個別の教育相談指導に対応できるスキルを身に付ける。	A		・正保春彦先生による「構成的グループ・エンカウンター」の研修では、活動的・実用的な研修が実施できた。教育相談部で対応する生徒の悩みの主訴、または生徒の特性の多様化を考え今後とも適切に対応できる資質の向上に取り組んでいくことが必要である。
	3 教育相談室利用の利用を希望する生徒への学習指導の確立。	・教育相談室の中・長期利用生徒に対し、各教科の学習の遅延対策を行う。特に主要教科担当教師の協力により、進級に対応できる学習課題の準備・提供等を行う。	B		・今年度の相談室長期利用生徒は4名であった。次年度も長期利用生徒の対応は想定される。相談室を利用する生徒の学習指導については、各学年や各教科担当に、より細やかな協力をお願いしたい。

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
特別活動 部	1 様々な学校活動を通して、学内における生徒同士の関わりを深め、コミュニケーション能力の向上を目指す。	・学校行事の組織編成を工夫し、生徒同士が関わりを持つことのできる運営を実施する。	B	B	・今年度は、企画した学校行事を再び全て行うことができた。好文祭では、5年振りに一般公開を実施し、677名の方が来校した。昨年度は、キッチンカーによる販売を行ったが、今年度は各クラス・部活動から飲食店を出店し、生徒・PTAを含め盛大に実施することができた。 ・委員会活動は、学校行事と合わせて、多くの生徒が活動できる場を作ることが課題である。 ・部活動加入率は、昨年度は36%、今年度は42%で、6%増であった。更なる加入率向上のために、部活動紹介等を工夫していきたい。
	2 委員会活動の活性化し、生徒主体の活動を通して、自主的・実践的な態度の育成を目指す。	・各委員会活動が活動予定及び運営要領を策定し、生徒が中心となり主体的に取り組めるようにする。	B		
	3 部活動の活性化により、明るく活動的な学校生活の実現を目指す。	・部活動を通して、心身を鍛え協調性を育み、明るく健康的な学校生活を送り、同じ目標を持つ活動の中で、クラス活動とは異なる、より豊かな人間関係を育成する。	A		
	4 クラス活動を通じた自主性・社会性の育成、集団の中での責任感や連帯感の涵養を図る。	・クラスマッチや好文祭などのクラス活動において、互いを尊重しながら、より良い企画の実現を目指して、意見交換等を積極的に行うなどの機会を作る。	A		

	5 地域貢献活動を通して、奉仕の精神の涵養、社会性の向上、達成感の醸成を目指す。	・清掃・美化活動の実践と活動の活発化。また、地域行事やボランティア活動への積極的な参加による体験活動の推進。	A	・地域貢献活動は、今年度からボランティア会がボランティア同好会に昇格し積極的に地域の清掃活動や子ども食堂等に参加した。今後、多くの生徒が参加できるようにしていきたい。
--	---	---	----------	--

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
渉外部	1 保護者と教職員が連携し、信頼される学校づくりに努める。	・ P T A総会など P T A 関連行事の活性化を図るとともに、保護者に対して教育活動について理解を求める。 ・ 広報誌「白梅」が学校-家庭を結ぶパイプ役としての役割を果たし、教育活動について理解を図る。	B	B	・保護者が P T A 活動に携わる上での負担等に配慮しながら、本部役員及び学級長の選出に協力を求めることができるよう、環境整備していくことが必要である。 ・保護者の P T A 活動に関わる時間的制約に対応するために、オンラインによる会議等の実施も検討していく必要がある。
	2 P T A 活動の推進に努める。	・ 早めの連絡や日頃からの学校教育の理解を図り、P T A 総会や評議員会への参加率を上げ、活動の活性化を図る。	B		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
保健厚生部	1 校舎及び敷地内において積極的に清掃活動を行ない、生活環境の美化を図る。また、委員会活動の活性化を図り清掃活動などに取り組む。	・教室及び分担区の清掃は責任をもって行い、生活環境美化に積極的に取り組み、ごみの落ちていない清浄な環境をつくる。 ・美化委員や校内環境美化のボランティアなどの協力を得て、学校生活に関わる環境の美化を図る。	B	B	・ごみの散乱や設備の破損等については、先生方の協力を得ながら、清掃や修繕を行った。教室以外の各清掃分担区は、担任外の先生の数を検討し、区割り、清掃の仕方、人員配置等、定期的な見直しが必要である。 ・好文祭では、美化委員を中心に校舎内外の美化活動に取り組んだ。 ・消耗品の発注は、適切に行うことができた。 ・防災避難訓練は、中川商事所有地を避難場所として円滑に実施でき、防災意識を高めることができた。今後の課題として、状況に応じた避難場所等の検討がある。 ・奨学金関係は、申請や返還手続き等、例年通り遅滞なく適切に行うことができた。
	2 地震及び火災などの災害対策についての徹底を期し、生徒並びに教職員の防災意識を高める。	・防災避難訓練を通して、自身の安全確保の仕方や、避難経路を確認することで、万が一の災害時においても可能な限り害を被らないよう日常的な意識の高揚を図る。	B		
	3 奨学金（奨学生制度）について、適切な利用ができるよう、生徒及び保護者に周知徹底することで、生徒の進学機会の創出の一助とする。	・奨学金制度の案内を漏れなく生徒・保護者に伝え、提出書類の期限等を厳守させるなど、必要な手続きを遅滞なく行なえるよう指導する。 ・適宜説明会を行い、本人・保護者に制度の理解を深めさせ、適切な利用ができるよう促す。	A		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
第1学年	1 キャリア教育の充実	・下記の各事項を通して生徒の自己理解を深めさせつつ、進路活動を展開する。 ①ノルティール手帳 ②キャリアデザイン ③二者面談(三者面談) ④進路ガイダンス ⑤インターンシップ ⑥進路達成プログラム(1年生版)他 ※生徒に関する情報は「生徒カルテ」で管理及び共通理解を図る。	A	B	・ネットワーク環境について 本年度は下記の通り、クラッシー(ICT教育)などを有効活用し、生徒の学力の定着及び向上を図ることができた。 ・基礎力診断テスト対策 ・学習トレーニングの実施 ・基礎力診断テスト ・生徒カルテの活用 等 ・基礎学力について(GTZ) 基礎力診断テストの対策を行い、さらに生徒の高い学習意欲によりGTZ(国数英)がB1、科目別(英)のGTZではA2と高い成績を残す生徒を輩出することができた。また、リテラスもテスト対策と生徒の積極的な学習への取り組みにより昨年度より合格率を向上することができた。
	2 確かな学力の向上 学年目標④ 「進路実現」 基礎学力の定着	・学年目標として設定することにより常に生徒たちに意識させる。 ・ベーシックでは基礎力診断テストの結果及び現状に応じた課題(学習トレーニング)に取り組ませる。 ・適時、授業の取り組み方や家庭学習の状況等を確認し、生徒に応じた指導を図る。 ※「アンケート」等の有効活用	A		次年度も引き続き成績上位者のGTZの維持及び向上に努めていきたい。
	3 人間関係作りの推進 学年目標 「怒」 思いやり 「耳順」 聞く耳 「感謝」 ありがとう	・学年目標として人間関係の構築における大切な部分(怒など)を設定することにより、常に生徒たちに意識させる。 ・フレッシュャーズキャンプにおけ	B		・人間関係作りについて 入学後のフレッシュャーズキャンプでは目的としていた人間関係の構築を達成することができた。生徒からの一番の思い出としてキャンプを挙げる声も多い。次年度も新しいクラスに

		る各研修を通して人間関係の構築を図る。(→構築が図られた) ・クラス目標(曼荼羅チャート)の進捗状況を確認させるのと同様、クラスや学年全体の人間関係を振り返る時間を設ける。(=改善/向上)			なることにより新しい人間関係作りが求められる。引き続き、「怒(思いやり)」の大切さを伝え、社会に通用する人間関係作りを身に付けさせたい。
	4 特別活動の活性化	・委員会活動や生徒会、部活動の重要性を必要に応じて説明する。 ・各活動において実績等をあげた生徒及び団体に対して口頭や掲示物などで褒める。	B		
	※次年度への生徒募集に向けての第1学年としての魅力ある学校作り	・第1学年の活動実績を入試広報部における武器にしよう。 ①フレッシューズキャンプにおける教育成果(人間関係の構築/震災学習/目標設定等) ②ICT教育の展開(クラッシー等の有効活用)・現状のGTZに応じた学習課題の実施等→今後の学習成果の確認(9月) ③日本語のサポート体制(外国籍生徒対象) ※その他 適時入試広報部と連携し、様々な情報交換を行いつつ学年運営を展開する。	B		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
第2学年	1 キャリア教育の充実	・1学年に引き続きキャリアデザインや進路ガイダンスを通して全生徒が自己目標を掲げ、PDCAサイクルで目標達成できるよう指導する。今年度の終盤（遅くとも2月まで）には生徒全員、卒業後の進路目標が明確になっているように指導をしていく。	A	A	・今年度、キャリアデザインの授業や進路ガイダンスを通し、卒業後の進路目標が明確になった生徒が増えた。来年度はこれを継続し、早い段階から進路目標達成に向け、生徒一人ひとりがしっかり向き合えるように指導をしていきたい。
	2 確かな学力の向上	・ベーシックの授業において、生徒それぞれのペースでしっかり理解させ、基礎学力の向上を目指す。 ・長期休業中に宿題で出されるワンウィークトライアルの振り返りを授業と連携して指導を行い、成果を出す。 ・ホームルームを通じ、身だしなみと気持ちを整え、しっかりと挨拶をさせ、落ち着いて授業に向かう環境を作る。	A		・2年間で学んできたベーシックの集大成の年であるが、現状は個人差がかなり出てきている。それぞれの進度に合わせて担任と副担任がしっかり連携を取り、指導していく。 ・ワンウィークトライアルは教科と協力し授業と連携し指導を行っていく。 ・次年度も、まずは身だしなみを整えることを第一に指導していく。
	3 ICT教育の推進	・昨年度はタブレット導入初年度であったため、タブレットを使用する機会が少なかった。図書情報部主催の勉強会で学んだことを活かし、授業やホームルームでの活用を増やしていきたい。 ・ガイダンス等でも進学業者と連	A		・次年度も図書情報部と連携を取り、タブレットを授業やホームルームで有効活用できるようにする。 ・進路ガイダンスや業者主催の進学相談会等でタブレットを使用しながら行う。資料請求等は業者のアプリ等で行っていく。

		携を図り、教員、生徒がしっかり使いこなせるようにする。			
	4 国際教育の推進	・残念ながら台湾には行けないが、沖縄修学旅行を通して、日本の歴史、戦争の悲惨さを学び、異文化を体験させる。 ・SDGsを通して、課題解決能力を養うと共に、未来に繋げて今を生きることの大切さを気付かせる。	A		・沖縄修学旅行は大きな事故や怪我もなく、旅程通り実施できた。教員と生徒の連携がとてもよく、両者が楽しむことができる旅行にすることができた。
	5 働き方改革の推進	・仕事量の偏りをなくすため、所属する校務分掌をベースに係分担表を作成し、完全分担制を目指す。 ・報告、連絡、相談を密にし、一人ひとりがお互いの状況を把握する。 ・助け合いを第一に。困っている教員や、忙しい教員など学年の先生一人ひとりがお互いに声を掛け合い、助け合いOUR TEAMとなる。	A		・次年度も、仕事量の偏りをなくすため、校務分掌をベースに係分担表作成し、取り組んでいく。 ・報告・連絡・相談を密にし、常に教員同士が連携をとれるようにしていく。 ・進路決定100%を達成する。全員が笑顔で卒業し、OUR TEAMを完結させたい。

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
第3学年	1 キャリア教育の充実 ・社会的自立に向け、基盤となる能力の育成 ・希望進路の実現	・ 自己の能力や適性に合った進路を決めるために以下の取り組みを実施する。 ・ 進路相談会 ・ 就職個別面接会 ・ 進学個別面接会 ・ キャリア教育との連携 ・ 志望理由書 ・ スコア手帳の活用 ・ 個別面談	A	A	・ 前期期末考査→三者面談→会社見学の流れがあるが、スケジュールがタイトである。生徒が限られた時間の中で興味ある会社を見出すことができるように配慮する必要がある。 ・ ガイダンスは進路相談会や個別面接会（進学・就職）で十分であり、外部講師による面接指導は緊張感があり効果的だった。 ・ 志望理由書の作成や面接指導などは、学年に携わる授業担当者の協力を得ることができた。 ・ スコア手帳は、生徒によって活用に差が生じた。自己管理能力を向上させる手段として、生徒が十分に活用できるよう指導に工夫が必要である。 ・ 日々の学習活動については、ベシッックや補講の指導は丁寧にできた。しかし、学力上位層の引き上げのための課外授業の実施については課題が残った。 ・ 校内行事については年々主体的に取り組めるようになった。 ・ 精神的に未熟な生徒が見受けられるため、心の成長につながる教育のあり方等について、対応策を講じていく必要がある。
	2 確かな学力の向上 ・ 基礎学力の向上 ・ 希望進路に必要な学力の育成	・ 日々の学習を習慣化し、落ち着いた態度で授業に臨ませる。 ・ 提出物を期限厳守で出させる。 ・ ベーシッックにて講義、小テストなどを行う。 ・ 目的意識を持って進路マップや資格検定試験に取り組み、自己を高める。 ・ 課外学習の実施により P u l l T o p を図る。	B		
	3 人間関係作りの推進 ・ 思いやりと感謝の気持ち	・ クラスマッチ、文化祭などの校内行事において一人ひとりに役割を与え、主体的に他者と協働できるようにする。 ・ クラスの仲間に対して、思いやりの気持ちを持って接するように指導する。 ・ 感謝の気持ちを持てる心豊かな人材	A		

		の育成に努める。			
	4 特別活動の活性化 ・社会に役立つ人材の育成 ・ひたむきに取り組む姿勢	- 委員会活動や生徒会に主体的に取り組むことで積極的に社会貢献できる人材を育成する。 - 部活動を最後まで精一杯やり遂げる。	A		- 生徒活動や委員会活動、ボランティア活動に参加することで有意義な学校生活となった様子だった。部活動と同様に、地域社会の課題に取り組むような活動を、増々求められることが想定される。 - 進路活動を通して、身だしなみ、礼儀作法が定着した印象がある。成人年齢を自覚できるような活動や取り組みの機会を確保する工夫が求められていると考える。
	5 基本的生活習慣の確立 ・身だしなみと言葉遣い ・マナーと規範意識 ・時間を守る	- 面接練習を通して、身だしなみや言葉遣いを指導する。 - 成人年齢を自覚させ、社会の一員としてのマナーと規範意識を身に付けさせる。 - 授業遅刻や朝の遅刻の改善を図り、時間を守ることを意識付ける。	B		